

令和7年度 自己評価 及び 学校関係者評価書

令和8年 2月26日

札幌市立平岡中央中学校

1 本年度の重点目標

- 1 心よせあう人間関係の醸成
- 2 分かる・できる・楽しい授業作り
- 3 個別支援の充実
- 4 「働き方改革」の推進と支え合い教育の質を高める教職員集団
- 5 信頼される学校づくり
- 6 義務教育9年間を見通した、小中一貫した教育の推進

2 本年度の経営方針

- 1 人間尊重の教育の推進
 - (1) 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり
 - (2) 教職員自らの人間尊重の意識向上
- 2 学びの質を高める教育の推進
 - (1) 知・徳・体の調和のとれた育ち
 - (2) 子どもの発達への支援
 - (3) 信頼される学校の創造

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	重点目標は、学校教育目標の達成を目指すために、生徒の実態から見て適切な内容である。	A	本校の現状を踏まえ、学校教育目標達成をより高いレベルで目指すための重点目標となっている。具体的な手立ての充実を今後も図っていく。	A	A
	学校の姿勢や生徒の活動のようすを正しく理解してもらうための取組を工夫している。	B	学校日より、すぐる（学校保護者連絡システム）等で生徒の活動の様子や、学校からの情報を発信してきたが、HP の運用に課題がある。個人情報等の扱いに留意しながら、より良い発信の在り方を検証し、保護者の理解を深めることができるよう努めていく。	A	A
	生徒は意欲的に諸活動に取り組み、生き生きとした学校生活を送っている。	A	諸活動への取り組みに対する生徒自身の評価は高く、意欲的に活動している。これまでの成果を振り返り、これから伸ばしていきたい点を整理しながら、より客観的に自分を見つめさせることで、さらに充実した活動につなげていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	学校評価アンケートの回収率低下について、家庭環境の変化も背景にあると思われるが、学校改善のために回答しやすい工夫を行い、回収率向上に努めていただきたい。				
学習指導	生徒に目標をもたせ、学習状況を知らせるための評価のあり方と伝え方を工夫し、学習意欲の喚起に努めている。	B	落ち着いた状況で学習活動に取り組んでいるが、授業に意欲的か、家庭学習に進んで取り組んでいるかという点についてはやや課題が残る。指導と評価の一体化を目指しながら、「何のために学ぶのか」という点について、日々の授業や家庭学習課題等を検討し、生徒が自ら学ぶ意欲の向上につなげていく。	A	A
	体験的・課題探究的な学習指導を行いながら、主体的に学習に取り組む態度の育成に努めている。	A	AARサイクル（見直し、行動、振り返り）を通した課題探究的な学習を試行錯誤しながら行った。今後も、自身の学習状況と改善点に気づき、自ら学習方法を工夫したり、人に尋ねたりしながら、粘り強く取り組むことができるよう、学習課題の工夫を行っていきたい。	A	A
	学習内容や目標を明確にして指導計画の充実を図り、教材や教育機器の効果的な活用にも努めている。	A	単元のつながりや評価の観点を整理した上で授業を行い、生徒に到達が伝わるよう授業を行っていききたい。また、教材や教育機器について、活用の目的を明確にし、学習理解を深める場面や振り返りの場面で効果的に取り入れることで、指導の充実を図っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	今後も、子どもたちが社会で必要とされる力を着実に身につけられるよう、日々の教育活動の充実に努めてほしい。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	個を大切に、共感的な指導にあたり、ともに、社会性や秩序についても意識させる指導を実践している。	A	多様な生徒との日常的な関わりを重視し、生徒一人一人が自分が大切にされていると実感できたり、自身の課題や仲間との望ましいあり方を考えたりする姿勢を、今後も育んでいく。	A	A
	相談活動の充実を図り、個々の生徒の悩みや保護者の願いを受けとめ、迅速・的確な対応が可能な体制づくりを行っている。	A	日常的に生徒や保護者と対話を重ねることで相談活動の充実を図り、生徒に寄り添った対応を心がけたい。また、本校の「いじめ対策基本方針」に則して、未然防止、早期発見、早期対応に努めていく。	A	A
	落ち着いて諸活動に取り組むことができる集団づくりや、環境の整備に努めている。	A	生徒の生活状態に気を配り、意欲的に諸活動に取り組むことができる環境維持に努めた。委員会活動の充実や生徒作品の校内展示、学年交流等を通して、生徒が環境を大切に思い、互いに高め合う姿勢を育んでいく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		SNSの使用やルールに関する講演会を実施していること、学年・学級PTAの場などで注意喚起を行うことはたいへん意義があると思う。今後も継続することが望まれる。			
その他	校風や伝統を生かした行事や活動を工夫し、学校行事等を通して多様な生活体験をさせている。	A	学校祭、合唱発表会などの行事では意欲的な活動が見られた。日常のあいさつ等の礼儀や学校のルールを守ることにしても、委員会活動を通して意識を高くもち、行動することができている。「平岡中央中学校らしさとは何か」を生徒とともに見つめ、校風や伝統づくりにつながるよう活動のさらなる充実を図っていく。	A	A
	部活動を通して生徒の生き生きとした活動を促し、個の伸長とともに、社会性や協力などの望ましいあり方を学ぶ機会を提供できている。	A	各部とも意欲的に活動している。各種大会等で活躍する生徒、部活動も増え、社会性や協働性なども身に付いてきている。次年度もより充実した活動になるように努めていく。	A	A
	交通安全指導や登下校指導等を含む日常の安全指導を計画的に行っている。	A	保護者や地域とのさらなる連携や、安全意識の向上に努めていく。	A	A
	各種調査なども活用し、心身の健康管理ができるよう指導・助言に努めている。	A	生徒が心身ともに健康で安定した学校生活を送れるよう、日頃からシャポテンログの見取りや教育相談を通して早めの支援に努めている。生活リズムや休養の大切さについても継続して指導・助言を行い、必要に応じて、養護教諭、スクールカウンセラーと連携しながら、心身の健康管理ができる力を育てていく。	A	A
	生徒・保護者・地域からの意見や要望を聞く場を設けている。それらを尊重し、学校改善に生かしている。	A	PTAを大きく改革し、保護者の負担が少なく、参加しやすい環境づくりに努めている。今後も保護者・地域からの意見や要望、学校評価アンケートの内容を、学校改善に生かしていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		シャポテンログの活用により、生徒一人一人の様子に気を配り、担任にとらわれず教職員全体で子どもに向き合える体制ができていることは良いと思う。			
学校運営・組織・研修	生徒個々への配慮や支援に関して全職員の共通理解が図られている。	A	生徒指導研修会や職員会議を通して教職員の共通理解を深めている。また、学びの支援委員会において支援計画を立案し、個々の支援にあっている。その内容も念頭に置きながら、全職員で生徒の実態にあった指導を行っている。	A	A
	授業公開など、授業の工夫・改善のための研修が計画的に行われている。	A	今年度も小中連携として授業公開を行い、パートナー校の教職員と共同研修を行った。義務教育9年間を見通した授業改善を引き続き行っていく。	A	A
	安全管理・危機管理などについて全職員に共通理解され、徹底している。	A	施設設備の管理・点検、地震や火災に対する避難方法・不審者への対応方法の確認を定期的に行うことにより、日常における危機管理意識の向上に努めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		求められている役割が多様化し、対応すべき課題も複雑化している中で、現場の負担が増えている。大変なことも多いと思うが、今後も取り組みを続けてほしい。			